

## 鹿児島県本土から得られた九州沿岸初記録のキシマイショウジ

幸大二郎<sup>1</sup>・本村浩之<sup>2</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup>鹿児島大学大学院連合農学研究科（鹿児島市）  
yuki.corythoichthys@gmail.com (corresponding author)

<sup>2</sup>鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）

Received 14 January 2026

Revised 18 January 2026

Accepted 20 January 2026

Published 20 January 2026

DOI 10.34583/ichthy.63.0\_29

Daijiro Yuki and Hiroyuki Motomura. 2026. First Kyushu record of *Corythoichthys flavofasciatus* (Syngnathidae) from the southern Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 63: 29–31.

### Abstract

A single specimen (84.6 mm standard length) of a pipefish *Corythoichthys flavofasciatus* (Rüppell, 1838) (Syngnathidae), distributed in the Indo-Pacific Ocean, was collected from Minami-kyushu, southern Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan. In Japanese waters, *C. flavofasciatus* has previously been recorded only from Miyake-jima island (Izu Islands), Cape Ashizuri (Kochi Prefecture), and the Ryukyu Islands. Thus, the specimen, described here in detail, represents the first record of *C. flavofasciatus* from Kyushu.

ヨウジウオ科イショウジ属 (Syngnathidae: *Corythoichthys* Kaup, 1853) は日本国内からオビイショウジ *Corythoichthys amplexus* Dawson and Randall, 1975, キシマイショウジ *Corythoichthys flavofasciatus* (Rüppell, 1838), イショウジ *Corythoichthys haematopterus* (Bleeker, 1851), リュウキュウイショウジ *Corythoichthys intestinalis* (Ramsay, 1881), オボロイショウジ *Corythoichthys polynotatus* Dawson, 1977, およびクチナガイショウジ *Corythoichthys schultzi* Herald, 1953 の 6 種が知られる (瀬能, 2013; 吉郷 2014; Yuki et al., 2024). このうち, キシマイショウジは軀幹輪数が 15–17 (通常 16), 尾輪数が 32–39, 背鰭軟条数が 26–36, 背鰭基底下の体輪数が 5.75–7.75, 胸鰭軟条数が 13–17, 頭長が体長の 9.2–14.7%, 吻長が頭長の 38.5–52.6%, 吻高が吻長の 15.9–28.6%, 背鰭に暗色の斑がある, および雄の肛門輪の腹面に暗色斑があることで同属他種と識別される

(Dawson, 1977, 1985; Allen and Erdmann, 2008; 瀬能, 2013; Yuki et al., 2025a).

2025 年 12 月に鹿児島県南九州市から 1 個体のイショウジ属魚類が採集され, 本個体について検討したところ, キシマイショウジに同定された。本種はこれまでに三宅島, 高知県足摺岬, および琉球列島から記録があるものの (瀬能, 2013; 松沼, 2019; Motomura and Uehara, 2020; 和田ほか, 2021; Yuki et al., 2025b), 九州沿岸からの記録はなかった。鹿児島県南九州市産の標本は, 本種の九州沿岸初記録となるためここに報告する。

### 材料と方法

標本の計数・計測は Yuki et al. (2024) にしたがった。Yuki et al. (2024) が示した DPP (distance from posterior margin of orbit to central pectoral-fin base) は, 眼窩後縁・胸鰭基底中央間長と和訳した。標準体長は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。標本の作成, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) にしたがった。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

### *Corythoichthys flavofasciatus* (Rüppell, 1838)

#### キシマイショウジ

(Fig. 1)

**標本** KAUM-I. 222030, 雄, 体長 84.6 mm, 鹿児島県南九州市頴娃町別府番所鼻自然公園地先, 31°14'47"N, 130°26'02"E, 水深 0.1 m, 手網, 久木田直斗, 2025 年 12 月 5 日。

**記載** 計数形質: 背鰭軟条数 33; 臀鰭軟条数 4; 胸鰭軟条数 (左体側 / 右体側) 15/14; 尾鰭軟条数 10; 背鰭基底下の体輪数 6.5; 軀幹輪数 16; 尾輪数 39。体各部測定値の体長に対する割合 (%): 軀幹部長 25.3; 尾部長 64.4; 頭長 9.9; 吻長 4.5; 吻高 0.8; 眼窩径 2.5; 眼後長 3.4; 眼

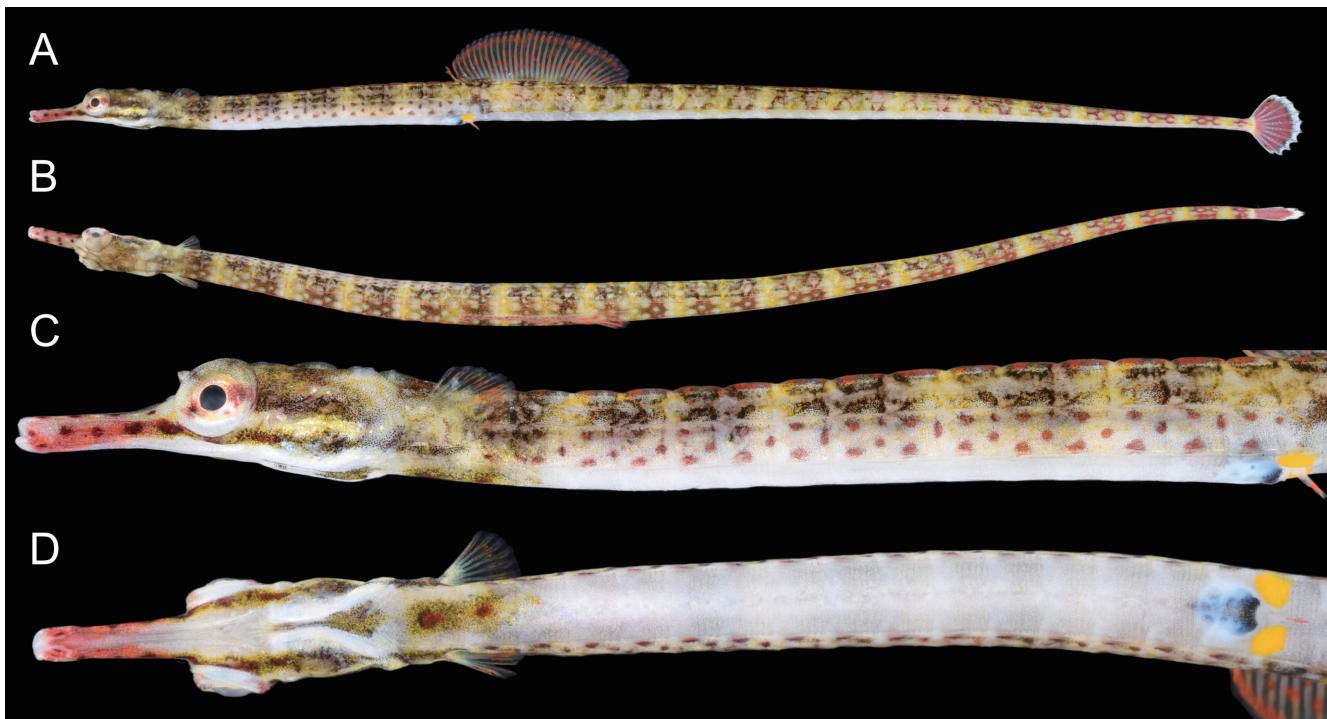


Fig. 1. Fresh specimen of *Corythoichthys flavofasciatus* (KAUM-I. 222030, 84.6 mm SL) from Minami-kyushu, Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan. A: lateral view of body; B: dorso-lateral view of body; C: lateral view of head and anterior body; D: ventral view of head and anterior body.

窩後縁・胸鰓基底中央間長 5.1；頭幅 2.9；体高 3.0；背鰓基底長 10.8；胸鰓基底長 1.5。

体は細長く、体輪（連続した環状甲板）で覆われる。軀幹部と尾部の上隆起線は不連続。軀幹部中央隆起線は直線状で、肛門輪末端で終了する。軀幹部と尾部の下降起線は連続。各体輪の隆起線はそれぞれの体輪の頂部が円滑で、接合部が凹むことによって僅かに張り出す。軀幹部腹面の中央隆起線は明瞭で、軀幹部横断面の腹面は鈍く V 字状に突出する。口は小さく、歯を欠く。吻は細長く伸長する。吻背面の中央隆起線は低く、骨質の隆起や棘を欠き円滑。吻背面の中央隆起線は眼上隆起線と連続しない。吻側面の中央隆起線を欠く。頭部背面の中央隆起線は明瞭。鼻孔は 1 対。両眼間隔は明瞭に凹む。主鰓蓋骨に後方へ向かう 1 隆起線がある。胸鰓基底前方に 2 本の隆起線がある。中間板に隆起線がない。第 1 軀幹輪幅は第 2 軀幹輪幅より大きい。軀幹部は尾部より太く短い。尾部は末端に向かうにつれ細くなる。育児嚢をもたない。背鰓起部は第 16 軀幹輪にある。背鰓基底部は盛り上がりらず、直線状。胸鰓後縁は丸い。臀鰓はきわめて小さい。腹鰓を欠く。尾鰓は扇形で、後縁は各鰓条間で緩やかに切れ込む。すべての鰓は棘をもたず、軟条と鰓膜からなる。頭部と体に皮弁がない。

**色彩** 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 頭部や体の背面と側面の地色は黄緑色、腹面の地色は白色。吻は赤みを帯びる。頭部側面に 2 本の黒色縦線があり、背側の縦線は鰓蓋後端に達し、腹側の縦線は胸鰓の後下方に達する。峠部は黄緑色。頭部背面と、体の背側から体側にかけて黄色の粗い網

目状の模様がある。体の背面から側面にかけて 20 箇所の輪郭が不明瞭な黒色から赤色の横帶があり、尾部後方に向かうにつれて赤みを帯びる。軀幹部上隆起線は赤色。軀幹部中央隆起線と下降起線の間に、3 列の褐色の斑点が並ぶ。第 1-2 軀幹輪の腹面は黄緑色で、赤褐色の斑点がある。肛門輪の腹面は黒色。第 1 尾輪腹面の前方は黄色。背鰓は透明で、多数の赤色の斑点がある。胸鰓は透明で、その後縁よりやや内側に赤色の斑点が並ぶ。臀鰓は透明で、縁辺がわずかに赤みを帯び、その内側に赤色斑がある。尾鰓は赤色で縁辺が白色。

**備考** 本研究で記載した標本は、軀幹部と尾部の上隆起線が不連続、軀幹部中央隆起線が直線状で肛門輪で終了する、軀幹部と尾部の下降起線が連続、吻背面の中央隆起線が低く円滑、頭部の隆起線が明瞭、鰓蓋に明瞭な縦走隆起線がある、中間板に隆起線を欠く、頭部と体に皮弁がない、および尾鰓軟条数が 10 であることから、Dawson (1977, 1985) と Yuki et al. (2024) が示したイショウジ属 *Corythoichthys* の特徴に一致した。また、上述の形質に加え記載標本は、軀幹輪数が 16、尾輪数が 39、背鰓軟条数が 33、背鰓基底下の体輪数が 6.5、胸鰓軟条数が 14-15、頭長が体長の 9.9%、吻長が頭長の 45.5%、吻高が吻長の 18.3%、背鰓に多数の赤色の斑点がある、および肛門輪の腹面が黒いことが、Dawson (1977, 1985) と瀬能 (2013) が示したキシマイショウジ *Corythoichthys flavofasciatus* の特徴と一致したため、本種に同定された。本種は体長 70 mm 程度の大きさから抱卵することが知られている (Dawson,

1985). 記載標本は体長が 70 mm 以上であり、育児嚢をもたないが、肛門輪の腹面が黒いことから、雄の個体であると考えられる。

本種はインド・太平洋域に分布し (Dawson, 1977, 1985), 日本では三宅島、高知県足摺岬、および琉球列島から記録があり (瀬能, 2013; 松沼, 2019; Motomura and Uehara, 2020; 和田ほか, 2021; Yuki et al., 2025b), 九州沿岸からの記録はなかった。鹿児島県南九州市産の標本は、鹿児島県本土初記録となるとともに、九州沿岸からの初記録となる。

## 謝 辞

本研究を取りまとめるにあたり、霧島市の久木田直斗氏には採集した標本を鹿児島大学総合研究博物館に提供していただいた。同館魚類分類学研究室の皆さんには、標本の作成および登録作業においてご協力いただいた。Ichthy 編集委員の宮本 圭氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。本研究は同館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087), JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローカル教育研究拠点形成」, および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業（奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル）の援助を受けた。

## 引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2008. *Corythoichthys benedetto*, a new pipefish (Pisces: Syngnathidae) from Indonesia and Papua New Guinea. *Aqua, International Journal of Ichthyology*, 13: 121–126.
- Dawson, C. E. 1977. Review of the pipefish genus *Corythoichthys* with description of three new species. *Copeia*, 1977: 295–338.
- Dawson, C. E. 1985. Indo-Pacific pipefishes (Red Sea to the Americas). The Gulf Coast Research Laboratory, Ocean Springs. vi + 230 pp.
- 松沼瑞樹. 2019. ヨウジウオ科, pp. 56–60. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作成と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125.
- 瀬能 宏. 2013. ヨウジウオ科, pp. 615–635, 1909–1913. 中坊徹次(編) 日本產魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 泰野.
- 和田英敏・古橋龍星・山田守彦・藤井琢磨・吉田朋弘・Kunto Wibowo・荒木萌里・伊藤大介・赤池貴大・中川龍一・渋谷駿太・是枝伶旺・出羽優凪・餅田 樹・本村浩之. 2021. 徳之島初記録の魚類 122 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 35–52.
- 吉郷英範. 2014. 西表島から採集された日本初記録のイシヨウジ属魚類 *Corythoichthys polynotatus* Dawson, 1977 (硬骨魚類綱トゲウオ目ヨウジウオ科). *Fauna Ryukyuana*, 11: 9–14.
- Yuki, D., H. Endo and H. Motomura. 2024. First Japanese record of *Corythoichthys intestinalis* (Teleostei: Syngnathidae) from the Ryukyu Islands. *Species Diversity*, 29: 247–253.
- Yuki, D., R. Fricke and H. Motomura. 2025a. *Corythoichthys quattuordecim*, a new pipefish (Teleostei, Syngnathidae) from the Coral Sea. *ZooKeys*, 1244: 113–119.
- Yuki, D., H. Motomura, H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2025b. A list of syngnathid (Teleostei) specimens deposited in the Department of Zoology, the University Museum, the University of Tokyo. *The University Museum, the University of Tokyo, Material Reports*, 139: 31–45.